

第22期末（2023年12月20日）

基準価額	19,158円
純資産総額	38億円
騰落率	10.6%
分配金	0円

# DCニッセイ／パトナム・ グローバル債券

追加型投信／海外／債券

## 交付運用報告書

作成対象期間：2022年12月21日～2023年12月20日

第22期（決算日 2023年12月20日）

### 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて「DCニッセイ／パトナム・グローバル債券」は、このたび第22期の決算を行いました。

当ファンドは、「ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド」受益証券への投資を通じて、実質的に日本を除く主要先進国の公社債に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後ともいっそうのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

商品内容、運用状況などについてのお問い合わせ先

コールセンター **0120-762-506**

(9:00～17:00 土日祝日・年末年始を除く)

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>

お客様の口座内容に関するご照会は、  
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-6

当ファンドは、投資信託約款において、運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、下記の手順で運用報告書（全体版）をダウンロードすることができます。また、運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

【ダウンロード方法】上記ホームページ→ファンド検索→ファンド名入力→ファンド詳細ページ→運用レポート→運用報告書（全体版）

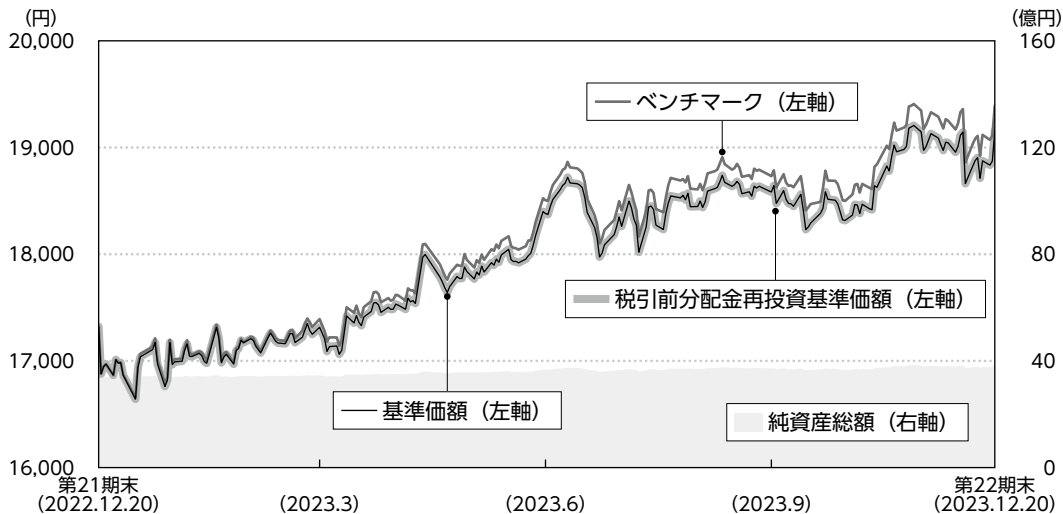
UD FONT

ユニバーサルデザイン（UD）の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

# 運用経過

2022年12月21日～2023年12月20日

## 基準価額等の推移



第22期首	17,322円	既払分配金	0円
第22期末	19,158円	騰落率 (分配金再投資ベース)	10.6%

(注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金 (税引前) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、前期末の基準価額にあわせて再指数化しています。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) ベンチマークはFTSE世界国債インデックス (除く日本、円換算ベース) で、前期末の基準価額にあわせて再指数化しています。なおベンチマークの詳細につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

## ■基準価額の主な変動要因

### <上昇要因>

- ・10月中旬から当期末にかけて、軟調な米景気指標が相次ぎ、市場で早期利下げ観測が広がったことなどから金利が低下 (債券価格上昇) 基調で推移したこと

### <下落要因>

- ・7月上旬から中旬にかけて、内田日銀副総裁の発言を受けて金融緩和修正への期待感が高まったことなどから米ドルが対円で下落したこと

## 1万口当たりの費用明細

項目	第22期		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	198円	1.100%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は18,001円です。
(投信会社)	( 94)	(0.522)	ファンドの運用、法定書類等の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	( 94)	(0.522)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受託会社)	( 10)	(0.055)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
その他費用	4	0.022	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	( 2)	(0.013)	海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	( 2)	(0.009)	公募投資信託は、外部の監査法人等によるファンドの会計監査が義務付けられているため、当該監査にかかる監査法人等に支払う費用
(その他)	( 0)	(0.000)	・信託事務の諸費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用 ・借入金の利息：受託会社等から一時的に資金を借り入れた場合（立替金も含む）に発生する利息
合計	202	1.121	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

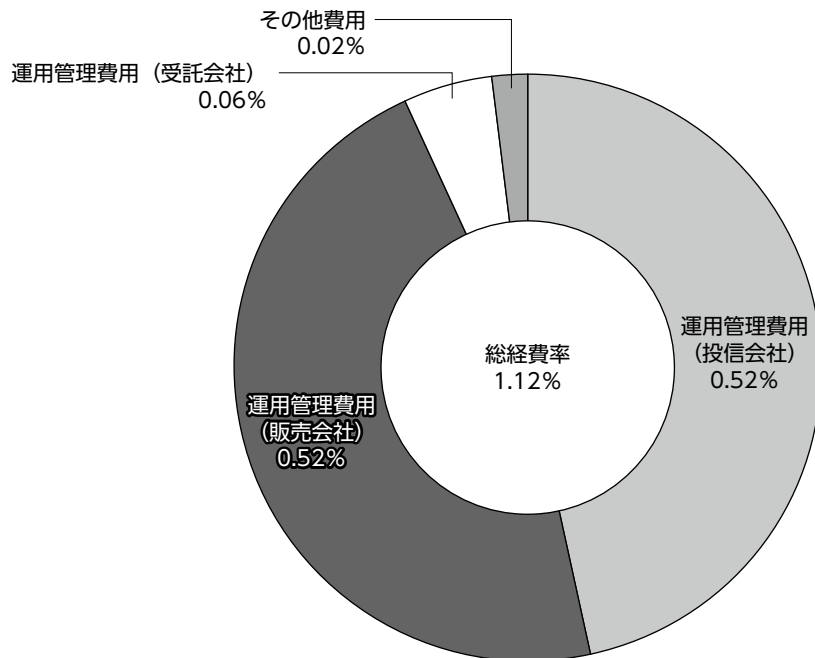
(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

## (参考情報)

## ■ 総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.12%**です。



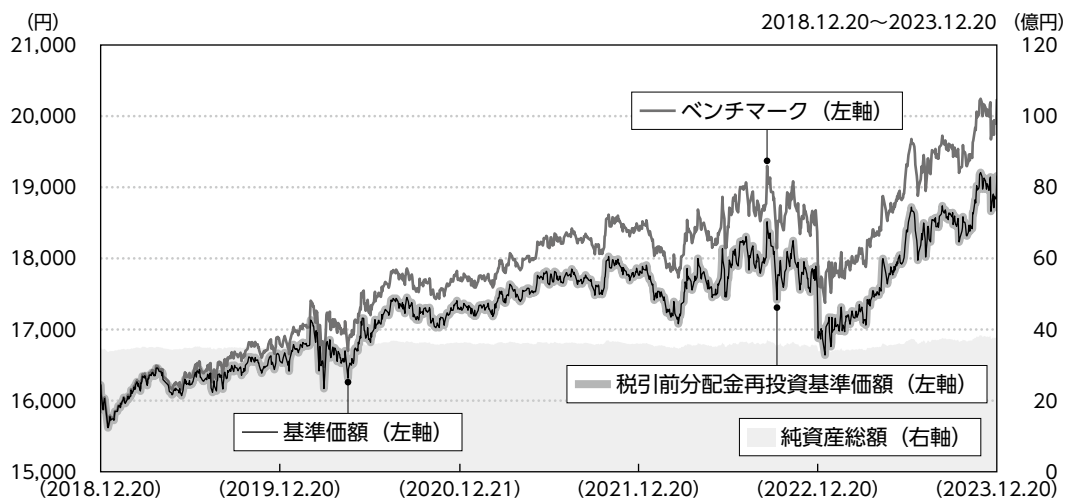
(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、2018年12月20日の基準価額にあわせて再指数化しています。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

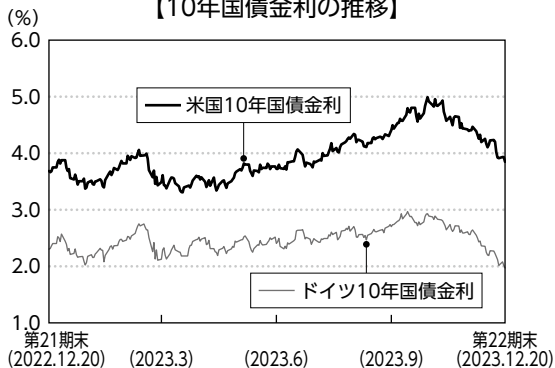
(注3) ベンチマークは2018年12月20日の基準価額にあわせて再指数化しています。

決算日		2018年 12月20日	2019年 12月20日	2020年 12月21日	2021年 12月20日	2022年 12月20日	2023年 12月20日
基準価額 (分配前)	(円)	16,220	16,562	17,281	17,765	17,322	19,158
期間分配金合計 (税引前)	(円)	—	0	0	0	0	0
税引前分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	2.1	4.3	2.8	△2.5	10.6
ベンチマーク騰落率	(%)	—	3.6	5.3	4.0	△1.8	12.0
純資産総額	(百万円)	3,505	3,497	3,619	3,597	3,469	3,827

## 投資環境

## ■ 海外債券市況

【10年国債金利の推移】



(注) ブルームバーグのデータを使用しています。

当期の米国10年国債金利は期を通じて見ると上昇しました。

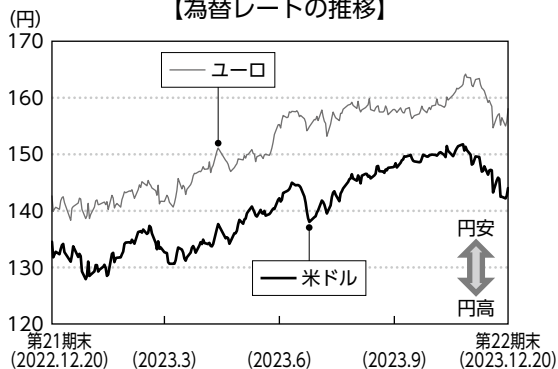
期初は低下基調で推移したものの、2023年3月上旬にかけては堅調な米雇用統計の発表などを受けて、金利は上昇基調で推移しました。4月上旬から10月中旬にかけては、米連邦準備制度理事会（F R B）が利上げに積極的な姿勢を示したことなどから上昇基調で推移しました。その後、当期末にかけては軟調な米景気指標が相次ぎ、市場で早期利下げ観測が広がったことなどから金利は低下基調で推移しました。

当期のドイツ10年国債金利は期を通じて見ると低下しました。

2023年1月中旬から3月上旬にかけては、米金利の上昇や欧州中央銀行（E C B）高官の金融引き締めに関する積極的な発言などを受けて上昇しました。その後、米地銀の経営破綻を背景に金利は一時低下したものの、10月上旬にかけては米金利の上昇に追随して上昇基調で推移しました。当期末にかけては軟調な米景気指標を受けて米金利が低下したことから、欧州金利も低下しました。

## ■ 為替市況

【為替レートの推移】



(注) 対顧客電信売買相場仲値のデータのデータを使用しています。

米ドル／円レートは期を通じて見ると上昇しました。

3月下旬から6月末にかけては追加利上げ姿勢を示すF R Bと金融緩和を維持する日銀との金融政策の方向性の違いなどから、米ドルは上昇基調で推移しました。7月に内田日銀副総裁の発言を受けて金融緩和修正への期待感が高まったことなどから一時米ドルが対円で下落したものの、その後は再び米ドルは上昇基調となりました。当期末は軟調な米雇用統計などを背景に、米ドルは対円で下落しました。

ユーロ／円レートは期を通じて見ると上昇しました。

期初から11月中旬にかけては根強いインフレ圧力を受けて金利が上昇したことや、イタリア国債の格下げ回避やギリシャ国債の格上げを受け、ユーロに対する懸念が後退したことなどから上昇基調で推移しました。当期末にかけてはE C Bの利下げに慎重な姿勢やドイツの景気不安などからユーロは対円で下落しました。

## ポートフォリオ

### ■当ファンド

マザーファンド受益証券の組入比率を高位に保った運用を行いました（ただし、当ファンドから信託報酬等の費用を控除する関係などから、当ファンドの収益率はマザーファンドと必ずしも一致しません）。

### ■マザーファンド

主に日本を除く主要先進国の公社債に分散投資を行い、ベンチマークを中長期的に上回ることを目標にアクティブ運用を行いました。運用にあたっては、ザ・パトナム・アドバイザー・カンパニー・エルエルシーに運用指図に関する権限（国内の短期金融資産の運用の指図に関する権限を除きます。）を委託しました。

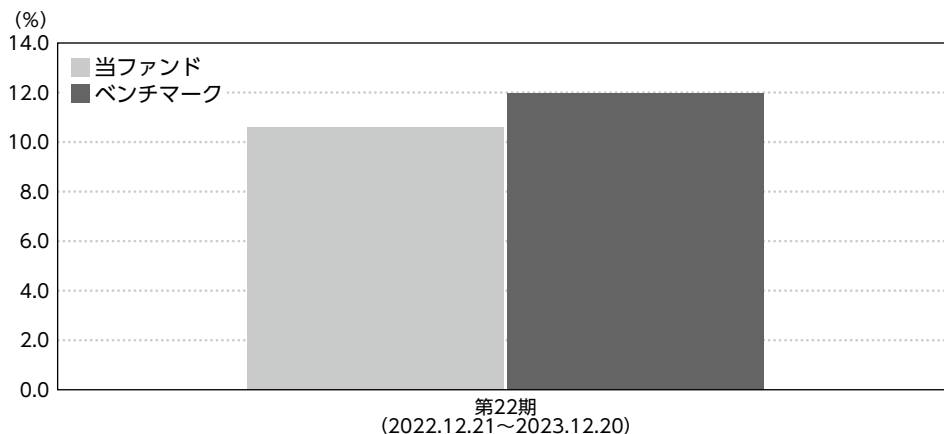
当期の債券種別構成は国債を中心に、政府・国際機関債やモーゲージ証券等の国債以外の債券も組み入れました。ベンチマーク対比で、デュレーションはやや短めに調整し、地域別配分は、欧州ユーロ圏等の比率を少なめの配分とする一方、北米圏および欧州非ユーロ圏等を多めの配分としました。また、通貨別配分は米ドル等の比率を多め、ユーロやカナダ・ドル等を少なめとしました。

(注1) デュレーションとは、債券投資におけるリスク度合いを表す主要な指標の一つで、金利変動に対する債券価格の反応の大きさ（リスクの大きさ）を表します。デュレーションが長いほど、金利変動に対する債券価格の反応は大きくなります。

(注2) 運用委託先であるザ・パトナム・アドバイザー・カンパニー・エルエルシーのデータに基づき作成しています（一部データを除きます）。

\*ベンチマークはF T S E 世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）です。ベンチマークの詳細につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

## ベンチマークとの差異



当期の税引前分配金再投資基準価額騰落率は+10.6%となり、ベンチマーク騰落率（+12.0%）を下回りました。

これは、当ファンドで信託報酬等のコストを控除したことなどによるものです。

(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

## 分配金

当期の分配金は、基準価額水準、市況動向等を勘案した結果、見送らせていただきました。

なお、分配に充てずに信託財産に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

## 【分配原資の内訳（1万口当たり）】

項目	当期 2022年12月21日~2023年12月20日
当期分配金（税引前）	—
対基準価額比率	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	9,670円

(注1) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切り捨てで算出しているため、合計が当期分配金と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



# 今後の運用方針

## ■当ファンド

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本を除く主要先進国の公社債に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

## ■マザーファンド

米経済については、2023年7－9月期の実質国内総生産（GDP）成長率（改定値）が年率換算で前期比＋5.2％であり、5四半期連続のプラス成長となりましたが、インフレの影響による消費抑制や企業のコスト増、金利上昇による住宅・設備投資の抑制などにより景気が一段と減速する可能性もあることから、状況については注視していきます。金融政策については、12月12－13日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）において3会合連続での政策金利の据え置きが決定されました。パウエルFRB議長は、「政策金利がすでにピークに達している、もしくは非常に近いとの認識だ」と発言し、次回以降の会合で利下げの方針についても議論を開始すると示唆したことから、引き続き、今後の動向について注視していきます。

欧州経済については、ユーロ圏の2023年7－9月期のGDP成長率（改定値）が前期比－0.1％と小幅なマイナス成長に転じていることから、状況については引き続き注意が必要です。金融政策については、ECBが10月の理事会において、11会合ぶりに政策金利の据え置きを決定しており、引き続き動向を注視していきます。

今後の運用については、金利変動リスクの大きさを示すデュレーションは、現在ベンチマーク対比でやや短めに調整していますが、市場動向に応じて調整します。国・地域別配分は、現在ベンチマーク対比でアメリカ、オランダ等を多め、ドイツ等を少なめとしています。状況を見極めつつ調整します。通貨配分は、現在ベンチマーク対比で米ドル等を多め、ユーロ等を少なめとしています。機動的に調整します。

# ファンドデータ

## 当ファンドの組入資産の内容

### ■ 組入ファンド

	第22期末 2023年12月20日
ニッセイ／パトナム・海外債券 マザーファンド	100.0%

(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

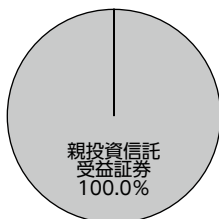
(注2) 組入全ファンドを記載しています。

### ■ 純資産等

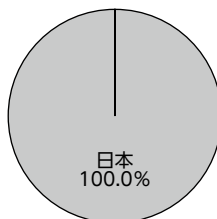
項目	第22期末 2023年12月20日
純資産総額	3,827,016,442円
受益権総口数	1,997,596,994口
1万口当たり基準価額	19,158円

(注) 当期間中における追加設定元本額は195,074,736円、同解約元本額は200,173,939円です。

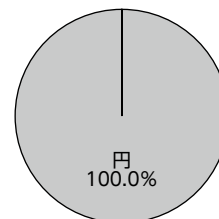
### ■ 資産別配分



### ■ 国別配分



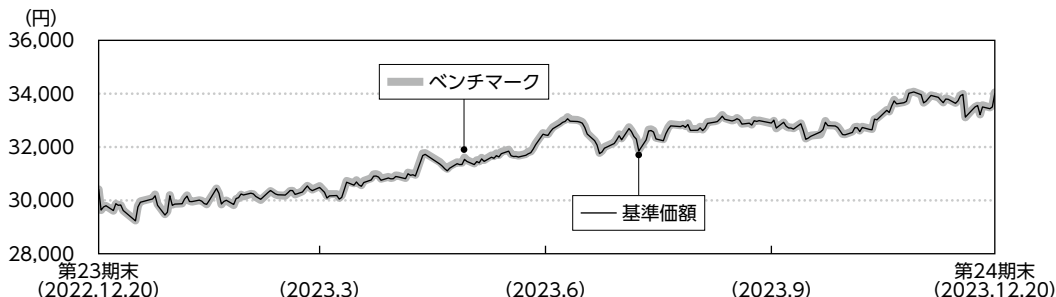
### ■ 通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分は、2023年12月20日現在のものであり、比率は純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンドの概要

■ 基準価額の推移



(注) ベンチマークは前期末の基準価額にあわせて再指数化しています。

■ 上位銘柄

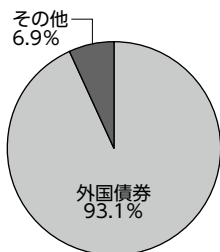
銘柄名	通貨	比率
US TREASURY 2.0% 2025/2/15	米ドル	6.9%
US TREASURY 2.75% 2042/8/15	米ドル	6.4
US TREASURY 2.625% 2026/1/31	米ドル	5.2
US TREASURY 2.625% 2027/5/31	米ドル	4.9
US TREASURY 1.375% 2026/8/31	米ドル	4.5
BUONI POLIENNALI DEL TES 6.5% 2027/11/1	ユーロ	2.9
US TREASURY 1.125% 2031/2/15	米ドル	2.8
US TREASURY 2.375% 2049/11/15	米ドル	2.7
GNMA TBA 4.0% 2054/1/1	米ドル	2.7
BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND 0.0% 2031/8/15	ユーロ	2.4
組入銘柄数		123

■ 1万口当たりの費用明細

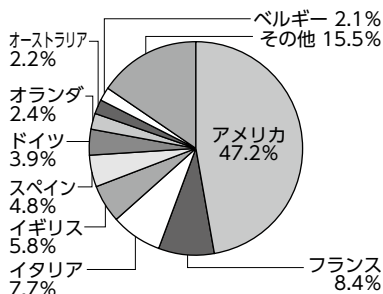
2022.12.21～2023.12.20

項目	金額
その他費用 (保管費用)	4円 (4)
(その他)	(0)
合計	4

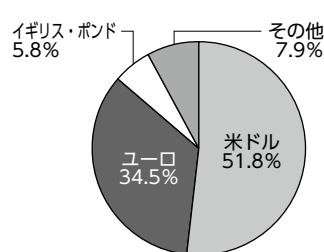
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



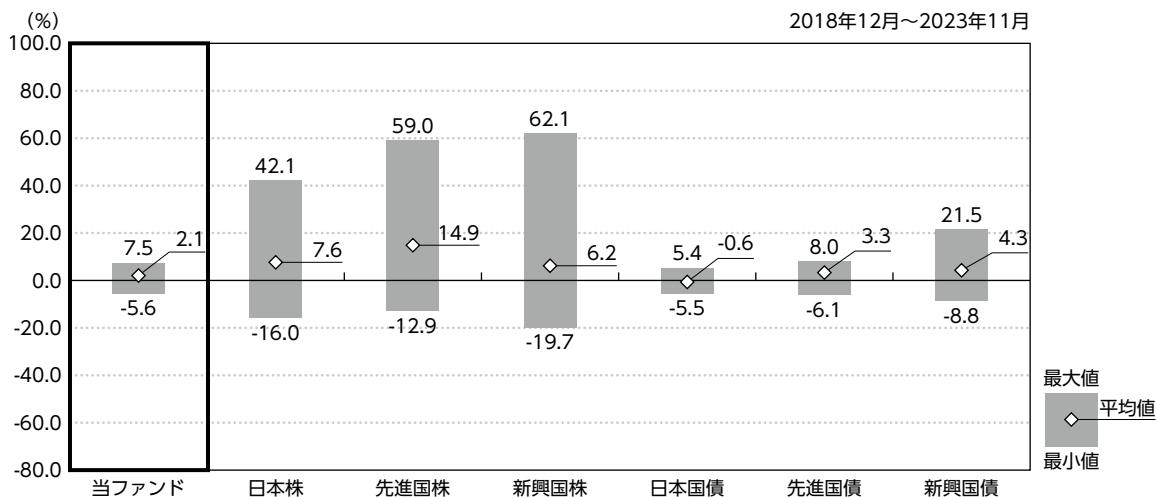
(注1) 基準価額の推移および1万口当たりの費用明細は、マザーファンドの直近の決算期のものであり、費用項目の金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。項目の詳細につきましては、前掲の費用項目の概要をご参照ください。

(注2) 上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分は、マザーファンド決算日(2023年12月20日現在)のものであり、比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

(注3) 全銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書(全体版)の組入有価証券明細表をご参照ください。

## 参考情報

## ■代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注1) 上記は、当ファンドの騰落率（税引前分配金再投資基準価額騰落率）と代表的な資産クラスの騰落率を比較したものであり、各資産クラスは当ファンドの投資対象を表しているものではありません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものであり、決算日に対応した数値とは異なります。

## &lt;代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数&gt;

- 日本株・・・TOPIX（東証株価指数）（配当込み）
- 先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）
- 新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
- 日本国債・・・NOMURA-BPI 国債
- 先進国債・・・FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
- 新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）

- ・すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・海外の指数は、「為替ヘッジなし（対円）」の指数を採用しています。

\*各資産クラスの指数につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

## 指数に関して

### ■ ファンドのベンチマーク等について

- ・ FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）  
FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。なお、「円換算ベース」とは同インデックスをもとに、委託会社が独自に円換算したものです。

### ■ 代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数について

- ・ TOPIX（東証株価指数）の指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。
- ・ MSCI コクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・ MSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・ NOMURA-BPI 国債とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産は同社に帰属します。なお、同社は、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任を負いません。
- ・ FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- ・ JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドは、JPモルガン社が算出する債券インデックスであり、その著作権および知的所有権は同社に帰属します。

# お知らせ

## ■約款変更

設定来のベンチマークを「FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）」から「FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）」に変更するため、関連条項に所要の変更を行いました。

(2023年9月21日)

# 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／海外／債券	
信 託 期 間	無期限	
運 用 方 針	ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、日本を除く主要先進国の公社債に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。 実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては、原則として為替ヘッジを行いません。	
主要運用対象	DCニッセイ／パトナム・グローバル債券	ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド受益証券
	ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド	日本を除く主要先進国の公社債
運用方法	DCニッセイ／パトナム・グローバル債券	以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・株式、新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。 ・外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
	ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド	以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・株式、新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。 ・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分 配 方 針	毎期、原則として経費控除後の利子・配当収入および売買益等の全額を対象として、基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。	